

**犬山商工会議所 経営発達支援事業  
令和2年度 経営発達支援計画 事業評価書**

犬山商工会議所

## 目標

本支援事業については、当地域の現状と課題、それに基づく小規模事業者の中長期的な振興の在り方を踏まえ、次の4つの目標を設定するとともに、実施する個々の支援ごとに数値目標を示し、合わせてP D C Aサイクルによる進捗管理、検証を加えて実効性を高め、概ね5年を目途に当該目標を達成するものとする。

- ① 自立的経営ができる小規模事業者の育成
- ② 地域経済を支える小規模事業者の数の増加
- ③ 交流人口の増加を背景とした消費需要拡大
- ④ 小規模事業者に対するカスタムメイド支援体制の構築

## I. 評価にあたっての考え方

犬山市の小規模事業者数は、現在 1,734 者あり（平成 28 年経済センサス活動調査数）当地域の活力を下支えする小規模事業者数の維持、創業・第二創業は、極めて重要な課題となっている。

本事業は、当所が策定し平成 31 年 3 月に国の認定を受けた「経営発達支援計画」に基づき、今後概ね5年間にわたって取り組んでいくこととしている。今般、令和2年度における本計画に掲げた諸事業の実施状況及び成果について、有識者による的確な評価を実施し、次年度以降における事業の円滑かつ実効ある実施に資するものとする。

## II. 評価方法

評価については、以下の通り実施する。

- ・ 評価は、詳細な「評価書」を作成して、中小企業診断士、税理士、市内金融機関支店長、犬山市担当職員等有識者及び、犬山商工会議所専務理事で構成する評価委員会に支援担当者を加えて、事業計画と実績についての客観的な評価を行う。
- ・ 評価は、定量面及び定性面から行い、P D C Aサイクルにおける「C」の位置付けとし、第三者の視点で厳正に評価する。
- ・ 評価は、評価書に基づき、事業目標の達成度合いを以下の3段階でランクづけする。
  - 目標を達成した
  - △ 目標を概ね達成した
  - × 目標を達成できなかった
- ・ 評価者の評価・提言を踏まえ、次年度以降の支援計画の在り方の見直しや今後の事業計画策定に当たっての基本的考え方としていく。

・当該評価委員会の評価結果については、当所三役会に報告し承認を受ける。  
また、当所HPに掲載して、域内小規模事業所へ周知・PRを図る。

### **Ⅲ. 評価書の構成**

評価委員の評価に当たっては、「経営発達支援計画」の項目ごとに、事業目標に対する定量面及び定性面からの実績を記載する。量的には、数値目標の達成実績を記載し、定性的には、実施した事業内容及び成果について、数値目標化していない、あるいはできない事項について目標達成に向けて実施した取組内容を記載するとともに、各事業の総括と今後の課題について記載する。

## I. 経営発達支援事業の内容

### 1. 地域の経済動向調査に関すること

- ①小規模事業者地域経済動向調査
  - ・小規模事業者地域経済動向調査
- ②地域経済動向に係る国等支援機関が実施する既存調査を活用する事業
  - ・ホームページでの公開頻度
- ③観光客の消費需要動向に関する調査
  - ・観光来訪者の具体的ニーズ等を把握
- ④商工会議所L O B O調査（早期景気観測）
  - ・日商L O B O調査

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
小規模事業者 地域経済動向調査	回収件数	予定なし	実績なし	400	219	予定なし	実績なし
	回収率 %	—	—	23.1	12.6	—	—
既存調査を活用する事業	日銀短観、景気ウオッチャーあいち・犬山市の統計、RESAS ほか、	犬山商工会議所 HP にリンクを張り常時検索閲覧可能		左同		左同	
観光客の消費動向調査	回収件数	予定なし	実績なし	目標なし	1,000	予定なし	実績なし
ホームページでの公開頻度	回数	12	9	12	5	12	0

### 実施内容

- ・小規模事業者景気動向調査については、隔年実施のため、令和2年度は実施なし。
- ・地域経済動向に係る国等支援機関が実施する既存調査を活用する事業は、H29.10.6から当所のHPにリンク掲載して常時検索閲覧可能状態にして実施し、経営指導員等が経営計画書作成の都度活用できるようにしている。
- ・観光客の消費動向調査は、令和2年度は実施なし。
- ・商工会議所L O B O調査は、毎月犬山市内在住の3事業所の景況・経営課題を調査し、日本商工会議所に提出している。日本商工会議所は全国のデータの収集・分析結果を取りまとめており、当該取りまとめた内容について、当所ではその都度所報で公開している。（調査は毎月実施しているが、所報にはこのうち7回掲載している。）

## 評価、課題、改善方法等

### ① 小規模事業者地域経済動向調査

本調査については、隔年実施のため令和2年度は実施なし。

令和3年度について、令和元年度に実施したように専門家へ調査分析依頼して、その分析結果について、全職員による勉強会を開催して、情報共有をはかり、HPにも掲載して、小規模事業者へ情報提供をはかりたい。回収率向上方法及び設問内容の充実を図るため専門家からアドバイスを得て改善して実施することとする。

### ② 既存調査活用

犬山商工会議所HPに掲載している各種データとリンクを張り常時検索閲覧することができるようにした。今後は経営指導員がより活用が図れる工夫に努める。

### ③ 観光客消費動向調査

令和元年11月に実施した同調査は、名古屋経済大学と共同で実施、集計分析し、犬山商工会議所ホームページで公開するとともに、キャスト展示場で掲示するなどPRに努めてきた。

今後については、コロナ禍から回復の状況を注視しながら令和3年度以降の実施に向けて、名古屋経済大学と検討をすすめ、複数年にわたって比較分析して実施するものとする。

### ④ LOBO調査

既存の日商LOBO調査のデータを一部加工して地域データ化する計画であったが、犬山市の調査件数は3件であり、市域データとしては有意性に欠けること、また中部地域データを収集するに当たっては少なからぬ費用が発生することが判明し、令和3年度も現在の方法を継続実施することとした。

評価	○
----	---

#### 【評価委員のコメント】

既存データについては充分活用されていることが認められる。引き続いてどう活用していくか活用方法を検討してほしい。

## 2. 経営状況の分析に関すること

### ①各種資料の分析方法と提供

- ・小規模事業者への巡回窓口指導延企業数
- ・事業計画書等作成事業
- ・各種セミナーの実施
- ・専門家派遣事業（丸っと解決相談、ミラサポ）

R2年度は12月末まで

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
巡回窓口指導件数	件数	1,008	1,273	1,008	1771	1,008	1752
小規模事業者への訪問事業	件数	—	—	610	582	610	0
小規模企業振興委員帯同巡回による訪問事業	件数	—	—	225	203	225	37
セミナー参加者数	人数	60	21	40	59	40	138
経営状況の把握対象事業者数	件数	50	21	60	41	60	178
指導診断書作成数	件数	50	25	57	15	58	5

### 実施内容

- R1.12月末現在 巡回 582件、窓口 349件 計 931件
- ・R2.12月末現在 巡回 477件、窓口 1,275件 計 1,752件  
内コロナ関係の指導件数は、753件
- ・小規模企業振興委員との帯同巡回 5振興委員と計37事業所を訪問
- ・セミナー開催実績（小規模事業者のみ）
  - 創業支援セミナー 15人
  - 事業計画書作成セミナー（一般） 79人
  - 同（コロナ） 44人 計138人
- ・経営状況の把握・指導診断書作成件数
  - 経営状況の把握事業所数 178件
  - 指導診断書（ローカルベンチマーク含む）作成数 5件

### 評価、課題、改善方法等

#### ① 対象事業者の選定

事業計画策定に向けた経営状況分析の対象者は、「経営発達支援計画」に基づき、巡回窓口指導、小規模

事業訪問事業、振興委員との帯同巡回や各種セミナー参加者の中から抽出・選定を行った。選定した対象者のほとんどは、新型コロナウイルスによる窓口指導時における経営状況の聞き取り、相談等に当たって行う各種補助金獲得をねらって経営計画書の策定作業がきっかけとなったものである。一方、セミナーについては、毎月経営計画書作成セミナーを実施し、セミナー参加者の内31事業者が事業計画書作成に繋がり効果があった。

新型コロナウイルス感染症による売上減少による窓口指導による事業者からの要望は激増した。コロナ禍は今後も長引くものと予想され、引き続き、対象事業者に対し親身になって対応し、少しでも早く売上回復できるよう引き続き、伴走支援していくこととする。

また、経営計画書作成者のほとんどは、「小規模事業者持続化補助金」を始めとする支援措置希望者が占めた。支援措置希望者は、事業計画策定の直接的動機は補助金の交付であるが、これを契機に経営状況の分析及び事業計画の策定・実施の重要性を認識するに至っている。補助申請が不採択に終わっても、多くの事業者が当該計画に沿って事業を展開していることが、その後のフォローアップ活動を通じ確認されている。今後においては、長引くコロナ禍の中、新しい生活スタイルに対応した小規模事業経営の重要性を啓発していく。各種の補助を希望して行う経営計画書の策定作業をきっかけに経営状況の分析をし、経営の計画的な実施につなげる支援に努める。

## ② 経営状況の把握・分析方法等

経営状況の把握・分析は、多くは特定の支援（補助金）の獲得を念頭に置きつつ、対象事業者が目指す事業目的を達成する計画の策定を行う。コロナ禍に対応した新しい生活スタイルを踏まえて行う「財務内容」、「商品サービス等の内容」、「売上動向」、「販売方法」等の項目に係る面談等を通じて、ABC分析、SWOT分析等の手法を使って経営計画作成を支援した。なお、経営指導員ごと、また個別事業者ごとに、経営分析・診断ツール及び使い方に差が表れ、分析の精度、客観性など品質の面での差が出ていると認められるので、今後はこれらツールの使い方の標準化が課題と考えられる。

なお、クラウド型経営支援ツール「BIZミル」については、経営計画書作成支援事業所及びマルケイ推薦事業所など、事業所登録を入力したまでに留まっており、経営状況の把握及び分析などには活用されていない。

## ③ 分析結果の活用

事業計画の策定に際しては、事業者に対し分析結果を「経営診断書」または「ローカルベンチマーク」の形に取りまとめ、経営計画策定のベースデータとするとともに、当該事業計画の内容の的確性や実現可能性を高める根拠資料として活用してきた。

コロナ禍の中、多くの事業者からの相談に対応等、事業計画策定の時間的制約（多くは補助金交付申請の時間的制約）や経営指導員等の経験の違い等による分析ツールの活用の差等が要因で、「経営診断書」を作成しないで終わるケースもあった。

クラウド型経営支援ツール「BIZミル」については、所定の事業者データ等入力に相当程度時間を強いられることから、事業所データの一部入力に留まり、分析活用までに至らなかった。

今後については、近隣商工会議所等とその活用方法について協議し、方向性を探っていく。そのうえで本格導入するか否かを検討することとする。それまでは、従来から実施している（「指導診断書」及びローカ

ルベンチマーク) を活用する。

参考：クラウド型経営支援ツール「B I Z ミル」

(株)エイチ・エーエルが持つコンサルティングで培ったノウハウと、(株)セールスフォース・ドットコムが保有する世界最大のクラウドCRM(顧客管理)システムを活用し、融合させることにより経営支援機関向けに中小企業の経営分析、事業計画策定支援を行い、経営支援機関が組織内で中小企業の状況を情報共有するために開発したシステム。

1. 伴走型支援の集計業務・報告業務を計画的に実施
2. 活動データを国に報告すること＝商工団体にデータを残す。
3. 事業者の成果(売上・利益)が求められる
4. 経営支援に関与する人の資質向上。共有化。「仕掛品の作成」

B I Z ミルの機能

- ① 経営分析から事業計画策定支援まで  
経営状況の分析 経営状況分析表、ローカルベンチマーク、財務分析表など出力  
事業所の定性情報、売上・利益計画、資金計画入力
- ② 情報共有とカルテ(実績)入力  
支援ノウハウ情報交換、支援能力向上、ノウハウの組織内共有
- ③ 経営発達支援事業実施状況調査における国への報告機能

評価	○
----	---

#### 【評価委員のコメント】

コロナ禍の中、経営状況の把握事業者数等、目標に対して大幅に増加しているので好評価。  
ただし、クラウド型経営支援ツール「B I Z ミル」については、今後近隣商工会議所等意見を聞くなど、活用方法を検討してほしい。





## 評価、課題、改善方法等

### ① 事業計画の策定支援

昨年春からのコロナ禍においては、小規模事業者へのダメージが大きく、国や犬山市の持続化補助金（一般・コロナ）や設備投資等補助金を活用する事業者が激増した。当所としてもコロナ禍での事業者支援を最重要課題と位置づけ、相談所職員全員で対応支援してきた。

コロナ禍においては、感染症対策を講じつつ売上回復を目指す事業計画を策定する小規模事業者のほとんどは、補助金（設備投資及び販路開拓等）の申請、融資の斡旋をねらって、事業計画策定を実施した。

経営計画書策定件数は、当初目標の3倍強の結果となった。

したがって、「経営状況の分析」などにあたって、指導診断書やつくるくんなどのツールを用いる時間を惜しんで事業計画の作成支援を行った。

今年度は緊急時対応ということで、このように時間をかけずに経営計画書の策定対応を行ったが、コロナ収束後の平時となるであろう次年度以降については、事業者の経営状況の把握、分析・診断には、指導診断書またはつくるくんなどを基に当該計画のブラッシュアップを実施しその最終工程において、外部専門家を徹底的に活用する方法に戻ることとする。

事業計画の的確性向上面における専門家活用の効果は極めて大きく、このことは、補助事業としての採択率の高さにより裏付けられている。

今後とも、各種補助金獲得をねらった経営計画書の作成をきっかけとして小規模事業経営にとっての事業計画の意義、効用について事業者を啓発しつつ事業計画の策定支援を拡大する。

### ② 事業承継に関すること

事業承継に関することは、コロナ禍ではほとんど相談者が少ない結果となった。

平成27年に実施したアンケート調査では、後継者がいない企業の70%は、将来、廃業するという結果がでている。この事実を踏まえ令和元年度から、青年部を中心に、後継者の育成や事業承継のためのセミナーを中心に支援を行ってきたが、参加者数は少なかった。事業承継診断を実施した案件は3件であった。

うち2件は、事業承継補助金の支援計画作成支援にあたり採択された。引き続き事業承継に至るまで支援を行う。

事業承継については、事業承継問題を抱える事業者を如何に多く掘り起こすかが取り組み上の大きな課題となっており、こうした中、名古屋商工会議所事業承継引継ぎセンターや中小企業基盤整備機構などと連携して、先のアンケート調査に対する回答、また巡回指導時のヒアリング結果や必要に応じて行う「事業承継セミナー」及びそれに付随して開催する「相談会」を通じて、事業承継に係る支援対象事業者の発掘（顕在化）に取り組む。引き続き第1期同様の取り組みを実施するとともに、事業承継情報を得るための仕組みとして、令和元年秋から始めた事業承継診断表に加えて、事業承継計画【企業概要、後継者候補、後継候補が株式（特定事業用資産）】を取得するまでの計画（当該時期までの課題、当該課題解決のための対応）を作成することを通じて事業承継に係る支援対象事業者の発掘（顕在化）に取り組んでいく。

### ③ 創業・第2創業支援に関すること

犬山市内で「創業セミナー」に加えて、名古屋経済大学と共催で学生を対象とした創業セミナー、とうし

ゆん及びいちい信金等金融機関が主催する「創業セミナー」について、毎年実施予定であったが、当所が実施した創業セミナーととうしゅん創業セミナー以外はコロナ禍によりが中止となった。

当所の実施した創業セミナーは、募集期間を多くとったことから参加者も増加し有意義なものとなった。一方、とうしゅん創業塾には犬山市内からの参加者はゼロであった。

こうした中、創業関連セミナーに参加せずに市内で開業する事業者が、把握できる限りで 10 数件ほどあった。これらセミナー非参加開業者を対象とする開催に当たっては、カリキュラムを参加しやすいものに設計変更して、参加者を拡大することが課題となっている。また、セミナー受講後または開業後のフォローが不十分である点も課題と認識されている。

今後も引き続き、参加者の拡大に向け創業セミナーの開催日、開催時間及びコマ数を改善するとともに、セミナーを担当する講師の選定に注力する。また、フォローを充実させる方法の一つとして、新たに、事業の立ち上げ段階を支援する措置（補助制度及び専門家の活用措置）を講ずるとともに、経営指導員等がマン・ツー・マンで支援する対策を講じていく。なお、令和 2 年度は 1 月末現在で、16 人の創業希望者から延 回にわたって創業相談があった。

第 2 創業については、11 月に経営革新セミナーを開催して「経営革新計画」の策定支援を軸に取り組んできたが、セミナー参加者は 3 人にとどまった。しかし、経営革新策定件数は 8 件と大幅に増加した。今後、当該計画策定のメリット等を引き続いてを宣伝して、事業者の新事業への進出を増やすこととする。

「ものづくり補助金」採択上の加点要素となっていること、また、令和元年度から、愛知県経営革新補助金が新設され、支援措置の厚みが増したことを積極的に宣伝することにより、経営革新計画策定参加事業者を増やす。

評価	○
----	---

#### 【評価委員のコメント】

コロナ禍の中、多くの事業者の経営計画書作成支援が達成できたことは評価される。

事業承継についても、支援対象者は潜在的に多数存在しているのでその発掘（顕在化）に取り組んでほしい。

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

##### ①事業計画実施支援

- ・計画の実施進捗状況の把握
- ・支援の継続的实施

目標	平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
事業計画フォローアップ事業者数 (事業承継、創業、経営革新を含む) 件数	50	35	57	41	57	175
フォローアップ延回数			171	86	178	167
1事業所当たりの回数			3回	2.1回	3回	0.94回
専門家派遣延回数			57	16	57	17
取組み後の売上増・現状維持事業所数			38	不明	38	未提出
取組み後の付加価値・現状維持事業所数			38		38	

12月末まで

#### 実施内容

- ・平成30年度までは、巡回窓口相談指導事業における課題解決提案の取組状況の取りまとめ  
(愛知県尾張県民事務所産業労働課)の実数値
- ・令和元年度以降  
事業計画策定後の  
フォローアップ対象事業者数、頻度(延回数)、専門家派遣回数、取組み後の売上、付加価値の増または、現状維持数 4月～12月
- ・切り口はいくつかあるがいずれも事業所が抱える課題に対する指導を行った。

#### 評価、課題、改善方法等

事業の実施中、経営指導員は、原則3か月ごとに計画策定事業者を巡回して、進捗状況を把握するとともに、事業目的達成に向けて必要な措置等を講じ、フォローアップ活動を行った。持続化補助金は、一般が年4回に加えてコロナ枠が年5回あり、経営計画書作成件数が3倍となったため、フォローアップまでの時間が割けなかったことと、全国的にも通常の3倍～5倍程度まで申請件数があり、採択までの月数が4か月以上かかり、また、コロナ感染症対策の事業再開枠への対応や、持続化補助金事務局の対応の遅さ等により、フォローアップに十分な時間が割けなかった。

以後12月まで、実質4か月間での数値としては、計画策定1事業所あたり、約1回となり、フォローアップ件数のみでは目標を達しているが、3ヶ月に1回以上のフォローアップ回数は目標達成できなかった。

なお、フォローの一環として、販促面、デザイン面等での取り組み等に専門家を活用したが、事業実施段階における、事業者の専門家派遣については要望が少ない状況である。職員のみで進捗状況の把握を行っているが、今後、専門家の知見を借りながら進めていく方法が、より効果が高まることから専門家との帯同での進捗状況確認を検討する。

また、「小規模事業者持続化補助事業」等において、事業効果としての売上・付加価値向上の動向を的確に

把握する必要性が痛感され、事業終了後における追跡調査について、BIZミルを導入（令和2年3月から導入）し、取組み後の売上、付加価値の増等を図り、フォローアップ指導を強化する予定であったが、事業者データ等入力に相当程度時間を強いられ、事業所データの一部入力に留まり活用が図れなかった。今後については、近隣商工会議所等へその活用方法を協議して、方向性を探ってから本格導入するか否かを検討することとする。

評価	△
----	---

**【評価委員のコメント】**

事業計画作成数の増加により対象事業所数も増加してしているものの、事業者に対するフォローアップは計画経営の重要性からしっかりと支援してほしい。補助金ありきの計画書であったとしても事務処理のみではなく、目の前の課題に対してのフォローアップ指導を行ってほしい。

## 5. 需要動向調査に関すること

### ①市場・消費・需要動向調査

- ・地域経済動向に係る国等支援機関が実施する既存調査を活用

### ②消費者リサーチによるニーズ情報等の収集、提供

犬山市産業振興祭での情報収集

- ・販路開拓支援PRコーナー 中止

近隣商工会議所等のイベント会場での情報収集 中止

犬山特産品館での情報収集

### ③ 犬山ドッグ

犬山ドッグ参加事業者に対し、アドバイザーと共に巡回ヒアリング調査を実施

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
市場・消費・動向調査	件数			57	41	57	178
犬山産業振興祭	人数	20	3	6	台風中止	6	コロナ中止
犬山特産品館 新商品等販売品目数	人数	15	0	1	0	1	0
その他イベント会場 (販路開拓等出展事業所数)	件数	15	0	1	0	1	0
企業家ビジネス交流会 起業家応援フェア	件数			1	2	1	実施せず
犬山ドッグ 試食会				80	未実施	80	実施せず
アンケート調査				16	未実施	16	訪問ヒアリング

## 実施内容

- ①市場・消費・需要動向調査については、インターネットで業種と需要動向を検索すると、国等支援機関や民間の業界団体等で調査した内容が表示され、それを活用する方法で行った。
- ②消費者リサーチによるニーズ情報の収集提供については、産業振興祭会場において、これまで伴走型支援してきた事業所の取り扱う商品やサービス内容について、来場者にPRする場を提供して実施する予定であったが、新型コロナウイルスのため中止となった。
- ③その他イベント会場については、近隣の小牧・春日井・江南・各務原等の商工会議所が実施する祭り等への伴走型支援してきた事業所の取り扱う商品やサービス内容について、来場者にPRする場を提供して実施するものであるが、すべて中止となった。
- ④起業家ビジネス交流会については、扶桑町と共催で、開業5年未満に対する小規模事業者に対する事業所の取り扱う商品やサービス内容のPRについても新型コロナウイルスにより実施しなかった。
- ⑤メッセナゴヤをはじめとした各地域でのお祭り（小牧産業まつり、江南市民まつり）等も中止となった。
- ⑥犬山ドッグ

これまでの推進委員会主導での事業運営を参加店舗事業者主導での事業運営とするため、中部経産局キーパーソンによる参画店へのヒアリングを行い、その結果を踏まえ、令和3年1月29日に犬山ドッグプロジェクトの方向性について、やる気のある事業者を中心に議論した。結果、現状認識として「今の犬山ドッグは地域の特性を活かしたものとなっていない」とのことであった。このため、「犬山地区の歴史、風土、文化に支えられた、高品質、伝統性、希少性、デザインを有する犬山ドッグの開発を行うことが必要」との結論に達した。

## 評価、課題、改善方法等

### ① 市場、消費、需要動向調査

事業者の事業計画の策定及び実施の段階で、経営指導員等が商品の消費動向や人口構成等を把握するため、事業者に係る業界団体が公表している調査データの活用を中心としつつ、国、県、市等の調査データを利用した。しかし、国等のデータについては、補足的な利用にとどまったが、支援活動におけるデータ分析力の高度化が課題となる中、外部の専門家等のアドバイス等を得つつ、各種データの活用方法を改善して実施した。この方法により効果が認められたため引き続き実施する。このほか、民間の調査機関等が発表している業界情報等についても、有効性が認められ、引き続き活用していく。

+

### ② 消費者リサーチによるニーズ情報の収集、提供

支援対象事業者の取扱い商品等について、当会議所のメイン催事に位置付けられる「犬山市産業振興祭」において、消費者ニーズのアンケート調査を実施するとともに、ブースを設け当該商品のPRや販売促進活動を実施する予定であったが、一昨年の台風、昨年は新型コロナウイルスにより中止となった。

### ③ その他イベント会場での近隣商工会議所が主催する祭りイベント等についても、中止となった。

### ④ 新規開業応援フェアについては、コロナ禍がまだまだ長引くことから、近隣商工会とも協議しつつも、開催するか否かを決定する。開催することとなれば、開業5年未満の事業者へ直接DMを送付して参加者を募集して実施するなど、参加者の増加対策等について検討する。

### ⑤ 今後、犬山ドッグについては、犬山ドッグの定義づけ、基本仕様の設定（米粉100%使用、グルテンフリー）を行うこととし、ホットドッグに合う当地域でとれる米粉を使ったパンの開発を試みることにする。3月に開催する会合では、アクションプランの提案について議論する予定である。

評価	○
----	---

**【評価委員のコメント】**

犬山ドッグについては、さらに訴求効果（欲しい買いたいという欲求）を高める工夫をしてほしい。  
ウイズコロナ、アフターコロナが続くなか、衛生面に配慮したイベント会場での広告宣伝の場の提供を行ってほしい。

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### ① 展示会参加事業

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
メッセナゴヤ 目標商談件数・制約件数	件数	10	8	8 (20・3)	6 20・3	8 (20・3)	コロナのため参加せず
ビジネスフェア 目標商談件数・制約件数	件数	12	9	9 (20・3)	6 20・2	9 (20・3)	コロナのため参加せず
多治見き業展 目標商談件数・制約件数	件数	1	1	1 (10・1)	0 0・0	1 (10・1)	参加せず

### ② ビジネスマッチング

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
地域商談会(尾張会場) 目標商談件数・制約件数	件数	10	2	10 (3・1)	4 4・2	10 (3・1)	中止
アライアンスパートナー発掘市 目標商談件数・制約件数	件数	12	5	12 (3・1)	5 10・16	12 (3・1)	6 5・3
多治見ビジネスマッチング 企業お見合い 目標商談件数・制約件数	件数	1	1	1 (3・1)	0 0	1 (3・1)	参加せず

### ③ 「技術シーズ案内書」発行事業

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
技術シーズ案内書 掲載事業者数	件数	0	0	30	申込無	0	0
技術シーズ案内書 各社PR	件数	0	0	50	0	0	0
技術シーズ案内書 活用商談件数	件数	0	0	1	0	0	0

### ④ 「グルメ&ナイトマップ」作成事業

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
グルメマップ 掲載事業者数	件数	30	28	28	50	28	実施せず
マップ持参による 新規売上拡大件数	件数	60	未追跡	5	未実施	5	実施せず

### ⑤ ホームページ作成支援



・売れるホームページセミナー ①SNS 編

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
セミナー参加者数	件数	10	20	20	14	20	実施せず
ホームページ開設者数	件数	5	未追跡	5	不明	5	—
新規顧客獲得数	件数	3	未追跡		不明		—

⑥観光事業者向け研修

・販路開拓セミナー（インバウンド需要拡大）

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
セミナー参加者数	件数	20	6	13	8 11	13	実施せず

⑦「Linkers」（マッチングサービス）の活用

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
仲介回数	回数	2	0	13	0	13	0

**実施内容**

- ・展示会のメッセナゴヤ、ビジネスフェアについては、新型コロナウイルスのため参加せず。多治見き業展、多治見ビジネスマッチング、企業お見合いについては、参加者がなく効果が薄いと判断されたため参加しなかった。
- ・尾張商談会は新型コロナウイルスのため中止、アライアンスパートナーナーは実施された。
- ・技術シーズ案内書は、隔年実施のため実施しなかった。
- ・グルメ&ナイトマップ作成事業は、新型コロナウイルスのため実施しなかった。
- ・ホームページ作成セミナー・観光事業者向け研修についても、新型コロナウイルスにより開催しなかった。
- ・「Linkers」（マッチングサービス）についても、新型コロナウイルス対応のため、実施できなかった。

**評価、課題、改善方法等**

① 展示会・商談会参加事業について

コロナ禍は、まだまだ長引くことが予想されるが、昨年同様に各申込期限までにコロナ禍についてリスクを検討し、参加するか否かを決定するものとする。新型コロナウイルスのリスクが回避されると見込まれる場合、実施に向けて検討するものとする。

② ビジネスマッチング事業について

コロナ禍は、まだまだ長引くことが予想されるが、昨年同様に各申込期限までにコロナ禍についてリスクを検討し、参加するか否かを決定するものとする。新型コロナウイルスのリスクが回避されると見込まれる場合、実施に向けて検討するものとする。

③ 「技術シーズ案内書」の発行事業について

本事業は、隔年実施事業のため令和3年度は、新型コロナウイルスの影響が予想されるが、実施に向けて検討するものとする。

④ 「グルメ&ナイトマップ」作成事業について

近時、犬山への観光来訪者が増加してきたが、新型コロナウイルスの影響がまだまだ予想されるが、実施に向けて検討するものとする。観光関連事業者からの新規参加希望が増え、また、犬山市、名古屋鉄道を始め行政、観光協会等から好評を得ているため、今後においても、紹介企業の拡大、発行部数の増加を図るとともに事業者へのヒアリング等を行って効果を確認する形で引き続き実施に向け検討する。

⑤ 「ホームページ作成支援」(セミナー) 事業について

新型コロナウイルスの影響がまだまだ予想されるが、実施に向けて検討するものとする。実施する際は、コロナ禍においても、誰に何を売り込むか、事業内容を明確にする際の盛り込むべき内容はどうか、どう情報発信するかを盛り込み、セミナーテーマを検討していく。

⑥ 「観光事業者向け研修」事業について

長引くコロナ禍の影響で、城下町地区やその他観光施設等への来訪者は回復傾向ではあるものまだまだ少ない状況が見込まれる。来訪者の状況を見ながらのおもてなし研修の開催を検討することとする。

⑦ 「Linkers」活用事業について

当会議所担当職員(Linkers 登録者)に、入手したLinkers 情報の内容を理解しマッチングに適切な事業者を選定するのに必要な目利き能力が不足しており、事業者へ情報提供等の面においてほとんど機能しなかった。このような状況のなか、新型コロナウイルス対応による時間的制約から当面は休止するものとする。

評価	△
----	---

【評価委員のコメント】

コロナ禍のため開催されていないので、△と評価。

## II. 地域経済の活性化に資する取り組み

### ①「犬山市産業振興祭」事業

- ・新型コロナウイルスの影響により中止
- ・代わって、コロナマイスターセミナー及び事業者の動画作成配信サービス事業を実施

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
チラシ・特典等配布事業者数	件数	15	不明	目標設定なし	中止	目標設定なし	中止
新規参加事業者数	件数	5	不明	〃		〃	中止
アドバイス件数	件数	6	なし	〃		〃	中止
コロナマイスターセミナー	件数					新規事業	27社 34名
動画配信サービス事業	件数					新規事業	34件 2905 回視聴

### ②地域振興活性化事業

- ・栗栖・継鹿尾地区
- ・羽黒地区

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
桃太郎の節分祭	来客数	450	400	目標設定なし	200	目標設定なし	中止
ぜんきゅう教室	来客数	40	26	〃		〃	中止

### ③地域産業資源の活用

- ・犬山ドッグ

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
参加店舗数	件数	25	16	目標設定なし	16	目標設定なし	実施できず
中学校給食採用回数	回数	1	1	〃	2	〃	実施できず
小学校給食採用回数	回数	1	1	〃	2	〃	実施できず

- ・桃太郎神社

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
土産品開発数	件数	1	2	目標設定なし	9	目標設定なし	1

R元 桃太郎伝説人形9種類製作

R2年 坂祝 鬼瓦キーホルダーの製作

### ④観光振興

- ・グルメマップの作成
- ・外国語看板対策事業
- ・外国人向け新商品開発セミナー

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和2年度	実績
マップ参加数	件数	50	0	50	0	50	実施できず
外国語メニュー併記 セミナー	回数	2	0	2	0	1	実施できず
セミナー参加者数	人数	10	11	10	0	—	実施できず

## 評価、課題、改善方法等

### ① 「犬山市産業振興祭」活用事業

当会議所を主体に市を挙げて実施する事業として定着しており、主に市民向けに物販や娯楽的イベントといった内容で開催されてきたが、1 昨年が台風により、昨年は新型コロナウイルスにより、中止となった。

近時、当振興祭へ来場者が増大しており、とりわけ市外からの来場が激増（本会場は、自転車愛好者によるサイクリング・ツアー（参加者 800 人）や、名鉄のハイキングイベント（参加者 1,800 人）のチェックポイントに登録）、その賑わい度は高まりをみせているため、参加商工業者における経済的効果も少なくない状況となっているが、コロナ禍は長引くと予想される。昨年、代替え事業として実施した、コロナ対策マイスターセミナーは、コロナマイスターがいる店の認定証、ミニのぼり旗を手渡しコロナに対する知識高揚と感染防止対策を研修していただいた。参加者からは有意義であった旨の声が多数あったこと、転移コロナウイルスについての知識も必要なことから、継続実施を検討する。また、新規事業として、動画配信サービス事業についても、3 4 社の事業所を申込いただき犬山商工会議所ホームページに掲載した。この動画サービスは1 1 月 2 5 日開始し2 月 2 日現在、2 9 0 5 回の視聴が確認された。このサービスについては、好評を得ているので継続して実施するものとする。

なお、本来の産業振興祭事業については、コロナ禍の状況があるが開催された場合は、本振興祭を地域小規模事業者の経営発達を図る場として活用する観点から、会場内に支援対象事業者の商品、サービスのPRなどを行うコーナー等を実施する。この事業は、参加者からは好評を得ており、地域経済の活性化への寄与度は向上している。については、支援対象者を増やしつつ今後も継続して実施する。

### ② 地域振興活性化事業

新型コロナウイルスの影響が予想されるが、地域で実施された場合、実施に向けて検討するものとする。

なお、地域の熱意、方向性等にバラツキが生じてきている。こうした中、商業の活性化から地区住民の親睦・交流へと活動方針を変更する地区については、本事業の対象から外すなどの見直しを行い、池野地区は廃止した。羽黒地区については、近隣事業者等の来客数・売上高の向上・地域の認知度の向上を図るものとするが、栗栖地区については、加えて、桃太郎伝説について調査研究し、桃太郎伝説にまつわる特産品の新商品を開発して推進していく方向で検討する。

### ③ 地域産業資源の活用事業

犬山ドッグについては、犬山ドッグの定義づけ、基本仕様の設定（米粉100%使用、グリテンフリー）を行うこととし、ホットドッグに合う当地域でとれる米粉を使ったパンの開発を試みることにする。以後、関係機関と協議しながら進めていく。

桃太郎プロジェクトについては、可児市と坂祝町と連携して、地域ストーリーの展開に向けて調査研究中で、令和3年度以降は、JAPANブランド支援等事業を活用し全国展開、海外展開事業として推進していく。

#### ④ 観光振興事業

犬山に来られる観光客等に対して、夜の飲食メニュー等を紹介するグルメ・ナイトマップについては、コロナ禍が長引くことが予想されるが、飲食店等は、営業自粛等により疲弊が著しく、厳重な最大限の感染症対策を講じたうえでの実施に向けて検討していくものとする。

評価	○
----	---

#### 【評価委員のコメント】

産業振興祭の代替事業として実施したコロナマイスターセミナー、動画配信サービス事業は好評で効果もあった。

桃太郎プロジェクトについては地域ストーリーの展開に向けて調査研究し、観光・土産物開発事業として実施してほしい。

### Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

#### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

##### ①経営革新等支援機関情報交換会の開催

目標		平成30年度	実績	令和元年度	実績	令和元年度	実績
経営革新等支援機関情報交換会	開催数	1	2	2	1	2	開催せず

##### ②市内金融機関と経営基盤強化を目的とした連携協定の締結

当会議所と市内金融機関との間で、小規模事業者の経営基盤の強化を目的とする2者協定、同時に、別途、当会議所と犬山市及び金融機関との間で目的とする3者協定を締結しており、これら協定に沿って、創業塾や販路開拓セミナー、補助金活用セミナーなどを連携して実施するなど、小規模事業者の支援を強化して実施している。今後も引き続き連携を強化し、小規模事業者に対する支援実行力を向上する。

#### 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

- ①愛知県が実施する経営指導員等の義務研修、
- ②日本商工会議所・中小企業大学校のセミナー
- ③尾張地区の商工会議所と連携した合同勉強会
- ④愛知県商工会議所連合会の中小企業相談所長会議での情報収集
- ⑤尾張地区の商工会議所の経営改善普及事業運営研究会からの情報収集
- ⑥経営指導員等による内部検証評価報告会
- ⑦スーパーバイザーによる研修

目標		令和元年度	実績
職員勉強会	開催数	3	開催せず
研修会	開催数	目標なし	16

#### 実施内容

- ・金融機関・税理士・中小企業診断士・商工会議所等認定支援機関による情報交換会を開催せず
- ・全職員内部研修 開催せず
- ・BIZ ミル研修会1回（動画） 尾張商工会議所各種研修会2回 その他日本商工会議所等支援団体等が実施する研修会等3回 へ参加
- ・スーパーバイザーによる研修 10回

#### 評価、課題、改善方法等

##### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等情報交換に関すること

##### ①市内経営革新等支援機関と情報交換会

令和2年度は、新型コロナウイルスにより開催できなかったが、令和3年度以降は、新型コロナウイルスの動向を注視して、実施に向けて検討する。

経営革新等支援機関に認定されている者で「支援機関等情報交換会」を組織し、情報交換をすることにより、経営指導員を始め全職員の支援力の向上、また支援機関の資質向上も図れ、タイムリーな時

期に必要とされる情報提供に視点を置いた情報交換を行うことができる。

## ②市内金融機関と経営基盤強化を目的とした連携協定の締結

当会議所と市内金融機関との間で、小規模事業者の経営基盤の強化を目的とする2者協定、同時に、別途、当会議所と犬山市及び金融機関との間で目的とする3者協定を締結しており、これら協定に沿って、創業塾や販路開拓セミナーを連携して実施するなど、小規模事業者の支援を強化した。今後も引き続き、支援実務面（創業者、経営経営計画書支援対象者、融資、事業承継等）での連携を更に強化し、小規模事業者に対する支援実行力を向上させる。

## 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### ①経営指導員等の資質向上に関すること

経営指導員等は、愛知県が実施する経営指導員研修を始め、金融・税務機関が主催する融資研修会決算説明会等に参加し、資質の向上に努めた。

### ②支援ノウハウ等の組織内共有体制の構築

職員間の支援能力のバラツキを改善し当会議所の総合支援力を向上させるため、経営指導員・補助員打ち合わせ会、相談所打ち合わせ会等の会議を活用し、また必要に応じて全職員勉強会を実施し、職員間における支援情報、ノウハウ等の共有化を推進する。

令和2年度はコロナ禍のため、全体研修会は開催できなかったが、令和3年度以降も、職員ごとにレベルに差がある支援能力をそれぞれ底上げを図るため、必要な知識等情報について、引き続き組織内職員に対して、その共有化を促進する方向で実施する。

評価	△
----	---

### 【評価委員のコメント】

コロナ禍であり、今後も長引くと予想されるので、リモートでのセミナー、個別相談も検討してほしい。